

# SHOWA UNIVERSITY NEWS

3

MAR. 2023

昭和大学新聞

通巻 第612号 (奇数月発行)

学生からの寄稿

定年退職者(教授)特別寄稿

「私たちが富士吉田で  
学んだこと、感じたこと」

 昭和大学  
SHOWA University



 昭和大学 上條記念館

### Special Feature

#### 定年退職者（教授）特別寄稿

小林 一女 教授	稲垣 克記 教授	鹿間 裕介 教授
田中 弘之 教授	橋本 東児 教授	南淵 明宏 教授
笠間 毅 教授	井上 晴洋 教授	井上 富雄 教授
片岡 竜太 教授	横 宏太郎 教授	荒木 和之 教授
佐藤 裕二 教授	飯島 毅彦 教授	

### Press Release

日本初！薬学部で臨床薬剤師教育VRを共同開発  
入院患者対応スキルを卒前教育で実践

「医工連携」目指し、臨床ニーズと企業技術の  
マッチング会で学生が60社に提案  
将来的には製品化も

地域保健医療の実践・教育の分野の  
先駆的諸活動に対し、昭和外条医療賞を贈呈

リンパ管壁のタンパク質分解が  
全身の免疫バランスに波及  
新たな血管保護の仕組みを解明

ウェアラブルデバイスとアプリで  
心疾患患者の運動習慣の獲得を支援  
新たに開発した運動サポートツールによる  
共同研究を開始

傷の修復に関わる新たなメカニズムを発見  
皮膚細胞機能がクロライドイオンにより制御される

### News & Topics

白衣授与式・秋の叙勲・アイスホッケースクール  
VR装置による授業・認定看護管理者修了式 ほか

### Database

#### 令和4年度科学研究費 助成事業採択課題一覧

保健医療学部 富士吉田教育部  
研究所・法人 2022年6月以降採択者

入試結果について

### Student Life

1年次学生からの寄稿  
「私たちが富士吉田で学んだこと、感じたこと」

### Appointments (就任のお知らせ)

### Meeting Report (学内会議報告)

### Information

## 「聴こえ」に関わる仕事に 従事した充実



医学部  
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座  
(昭和大学病院)

小林 一女

2023年3月、医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座を退職いたします。学生時代より長い年月を旗の台で過ごしました。多くの人に支えられ、無事この日を迎えることに安堵し、心より感謝しております。私は1982年、耳鼻咽喉科科学講座に入局致しました。手術ができる事、同期が多かった事、当時の岡本教授が女性医師に理解があった事が耳鼻咽喉科を選択した理由でした。その後市中病院で研修し、1991年に旗の台へ戻りました。私は岡本途也教授、野村恭也教授、洲崎春海教授の先代教授をはじめ、多くの先生方にご指導いただきました。自分が教授となり、それまでと全く違う景色を見るようになると、これまで教えた多くの先輩、同輩、支えてくれた後輩、周囲の方々の有難さを実感する日々でした。2021年より講座名を耳鼻咽喉科頭頸部外科学と変更しました。大変守備範囲の広い診療科ですが、私自身は耳科学、聴覚医学を中心に診療して参りました。コミュニケーションに大切な「聴こえ」に関わる仕事をしてきたことに満足しております。今後も微力ですが、昭和大学のため、患者さんのため、教室のためにお手伝いをさせていただきたいと思っております。長い間ありがとうございました。

## 研究をライフワークに



医学部  
整形外科科学講座  
(昭和大学病院附属東病院長)

稲垣 克記

この度、昭和大学医学部整形外科科学講座教授(主任)を定年退職することになりました。私は昭和59年卒ですが昭和大学医学部に入学してから45年間母校の昭和大学にお世話になったことになりました。私は昭和大学医学部を卒業後、直ちに大学院に入り東京大学にて神経の診断学を、また医学部生理学教室の本間生夫前教授のご指導のもと肋間神経移行術後の手の機能と脳の可塑性の研究を行いました。その後、米国メイヨークリニック整形外科に2年間の留学の機会を得て、上肢の人工関節の研究をさせていただきました。これらの研究は私のライフワークとして今後も続けて行きたいと思っています。先輩諸氏、同期の仲間、そして何と云っても優秀な教室員に恵まれて素晴らしい環境のもと、医学そして医療の道を進めてくれたことに心から感謝いたします。6年前からは昭和大学病院附属東病院の病院長を仰せつかり、病院の運営に携わる栄誉を得て大変勉強になりました。本学への感謝の気持ちは、言葉では言い表すことが出来ません。本学のさらなる発展を心より祈念致しております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## それぞれの環境での 支えに感謝



医学部  
内科学講座 呼吸器アレルギー内科学部門  
(藤が丘病院)

鹿間 裕介

1984年に本学医学部を卒業後、当時の第一内科に入局し、中島宏昭先生が指導される気管支鏡班(通称ブロンコ班)に所属しました。岡山の河本病院へ2年間の出張後、小林和夫先生のご指導のもと、肉芽腫の形成に関するInterleukin-1の重要性を証明し学位論文となりました。臨床面では肺癌患者さんを診ることが多く、現在の様な有効な治療がなかったため大変苦労したのを覚えています。この頃から日本では癌の告知やDNRといったことが議論され次第に緩和療法が普及するようになりました。6年目からは鹿児島の今給黎病院で呼吸器科医長として2年間を過ごしました。1993年から3年間米国ウィスコンシン大学免疫・アレルギー科に留学し、好酸球のサイトカイン産生や接着分子の研究に没頭しました。帰国後2001年より横浜市北部病院の立ち上げに参加しました。当初はスタッフも少なく夜中の呼び出しも度々でしたが、職員全体に活気がありよい経験をさせていただきました。2016年から藤が丘病院呼吸器内科に異動となり現在に至っています。それぞれの環境で多くの方々に教えられ、支えていただいたことに感謝申し上げます。昭和大学が今後100周年、さらにその先まで発展していくことを心から願っています。

## 定年退職者（教授）特別寄稿

## キラ星のように輝く 先輩方を追って



医学部  
外科学講座 心臓血管外科学部門  
(藤が丘病院)

田中 弘之

私は1977年に昭和大学に入学。1983年には故石井教授の昭和大学外科に入りました。3年目に高場教授の胸部外科に所属し、太田先生の太田総合病院胸部外科に出張しました。その当時は心臓血管外科に山本先生、故舟波先生、道端先生、山田先生、横川先生、呼吸器外科に門倉先生など私からみるとキラ星のように輝く先輩方がいて、楽しい日々でした。入局後6年目から9年目にかけてSouth Florida Univ. Tampa General Hp. St Petersburg children Hp.に留学させてもらい、1994年に、故堀科長の藤が丘病院に異動しました。その当時の循環器内科の教授故春見先生から故真島先生、嶽山先生、現在の鈴木先生と何代もの循環器内科の先生方にご指導いただきました。また、手術は麻酔科、放射線科をはじめ、藤が丘病院のすべての職員の皆様のおかげで施行できました。さらに他の附属病院心臓血管外科(旗の台、豊洲、北部)の御助力にも感謝いたします。苦しい時もありましたが、上記の先輩方、歴代の院長(真田先生、高橋先生)にも励まされ、今、振り返ると、本当に楽しく仕事をさせていただきました。今まで私を育ててくれた藤が丘病院、昭和大学への深い感謝とともに、今後の更なる発展を心からお祈り申し上げます。

## IVR基盤作りに 尽力の日々



医学部  
放射線医学講座 放射線科学部門  
(藤が丘病院)

橋本 東児

昭和大学を卒業後、昭和大学放射線科に入局し24年間、藤が丘病院に異動し15年間在籍させていただきました。入局した40年前は画像診断の価値が認識されていない時代でした。幸い米国放射線診断専門医を取得された宗近宏次先生がYale大学から戻られていたので、最先端の画像診断学を学ぶことができました。診断専門医の取得後は画像診断法の治療的応用であるIVRを専門としました。IVRの黎明期を過ぎていたとはいえ、未開の分野に挑む日々が長く続きました。感謝に堪えないのは、主治医先生方のサポートでした。スウェーデン・カロリンスカ研究所での臨床経験も助けとなりました。その後、IVRを愛する先輩や後輩によりチームを組めるようになり、大変助けになりました。振り返ってみて、昭和大学放射線科IVRの基盤作りに深く関わられたことを光栄に思います。心残りは藤が丘放射線科の組織整備や拡充には成功したと思うものの、その維持に困難な部分があったことです。諸先輩や同僚、多くの後輩に恵まれ、その他の多数の先生方からもご支援をいただき、なんとか今日に至ることができました。支えていただいた全ての皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

## キャリア集大成、昭和大学で 心臓外科手術に邁進



医学部  
外科学講座 心臓血管外科学部門  
(横浜市北部病院)

南淵 明宏

2015年、キャリアの集大成として小口理事長に拾い上げていただき、早8年が経ちました。それまでは民間病院で「おらはおらでひとりていくも」という孤独な立場でゲリラ戦法的に長年心臓外科手術に携わって参りました。そんな私を昭和大学の人の輪にあたたかくお迎えいただき、皆様には深く感謝いたします。一方で、あまりの居心地の良さに大した業績も上げることなく、時間が経ってしまったこととお詫び申し上げます。4月からは特任教授ということで、臨床しかできない私ですから今まで通りに手術をお手伝いさせていただき、若い世代により一層、羽ばたいてもらう所存です。さてコロナ禍やヨーロッパでの戦争で世界中の人々の心性はリセットされ、新しいなにかが芽生えつつあると思います。日本では中途半端なデジタル化や苛政による少子化も相まって、この社会の未来がどうなるか全く予想がつかえません。若い世代の人々にとって、これまでの因習や幻想の残骸の向こうには無尽蔵のチャンスが待ち構えていることと確信します。知らんけど。

## 変革期に貢献できた幸運

医学部  
内科学講座 リウマチ・膠原病内科学部門  
(江東豊洲病院長)

### 笠間 毅



2023年3月をもちましてリウマチ・膠原病内科の教授を定年退職いたします。1984年3月に昭和大学医学部を卒業後、同年第一内科に入局し専門としてリウマチ・膠原病内科を選択いたしました。学位取得後の1991年にミシガン大学SL Kunkel教授のもとに3年間留学の機会をいただき、ケモカインやサイトカインの研究を本格的に始め、帰局後も多くの医局員と共に自己免疫疾患におけるサイトカインの役割などに関する基礎および臨床研究を進めることができました。リウマチ・膠原病内科の臨床分野への抗サイトカイン療法の導入は、それまで対症療法が主であった関節リウマチの診療にパラダイムシフトと言われるほどの変革をもたらし、治癒に近い状態までも期待できる時代となりました。このダイナミックな時代に少しでも関与し貢献できたことが幸運でした。2014年3月には江東豊洲病院の立ち上げと成長をその一員として経験させて頂きました。今までご指導頂きました昭和大学や江東豊洲病院の皆様、またリウマチ・膠原病内科医局員の全員に感謝と御礼を表して退職の挨拶とさせて頂きます。昭和大学のますますのご発展と、とくに今年迎える昭和大学創立95周年のご成功を祈念致しております。

## POEMの普及に奮励

医学部  
外科学講座 消化器一般外科学部門  
(江東豊洲病院)

### 井上 晴洋



私は2001年、横浜市北部病院の開院時に消化器センター（工藤進英センター長）に入職させていただき、上部消化管の外科と内視鏡を担当させていただきました。開院時の第一例は胃全摘術だったのを昨日の事のように覚えております。その後、食道アカラシアに対するPOEM治療を開発し、2008年9月に昭和大学で世界第一例を施行いたしました。POEMはアカラシアに対する標準治療として国際的にも普及し、現在まで昭和大学（北部・豊洲）だけでも2,800例超に施行されております。2013年4月より江東豊洲病院の消化器センター長を拝命いたしまして、現在に至ります。開院時医局員26名でスタートいたしましたが、現在では61名の医局となりました。また、江東豊洲病院では、難治性逆流性食道炎に対する内視鏡治療（ARMS、ARMA）を開発しまして、今後は内科治療と外科治療の隙間を埋める有用な低侵襲治療として定着するものと期待されます。20年を超える在籍中にお世話になりました昭和大学の関係者の皆様により御礼申し上げます。今後は、センター長・特任教授として、微力ながら次世代の先生方を支えられればと存じます。昭和大学の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

## 教育改革の礎は チームワーク

歯学部  
口腔生理学講座

### 井上 富雄



2000年4月に大阪大学歯学部から昭和大学に赴任いたしました。当時、歯学部の先生方は教育改革に熱心に取り組んでおられ、2004年には講義を中心とした教育形態から問題解決型の少人数教育、統合型講義、学外の医療機関での実習の導入に大きく舵を切りました。教育職員の負担は増えましたが、新カリキュラムを形にしようと一致団結して努力するチームワークに驚きました。また、成績の良い学生が、再試験で苦しむ同じ教授コンパの学生の勉強を泊まり込みで教える姿を見て、学生の時からチームワークが良いことに感銘を受けました。その後すぐに「コンビニより多い歯科医院」などの報道が巷を賑わし、歯科に逆風が吹き荒れました。しかし歯学部は、昭和大学のチーム医療を実践できる医療人を協力して育成する教育方針もあり、優れた教育が評価されて、この難局を乗り切ることができました。この間、他大学で例を見ない優れたチームワークが、大きな力を発揮することを身をもって学べ、貴重な経験をさせていただけました。このチームワークの良さと昭和大学は今後ますます発展していけると確信しております。23年間、誠にありがとうございました。

## 問題解決型学習と IT化を推進

歯学部  
歯学教育学講座

### 片岡 竜太



1979年に昭和大学歯学部に入塾して以来お世話になり、この度、無事に定年を迎えることができました。卒業後、第一口腔外科（道健一名誉教授）に入局しました。音響学を活用した口蓋裂児の研究が縁で米国ノースカロライナ大学口蓋裂センターに留学し、鼻咽腔閉鎖機能の研究と同時にチーム医療を学びました。帰国後、故郷藤延一元歯学部長、中村雅典名誉教授のもとで、国内歯学部初の問題解決型学習（PBL）の導入に携わりました。2008年に歯科医学教育推進室長を拝命し、木内祐二副学長を中心としたチーム医療教育の立ち上げに携わり、宮崎隆副学長のもとで、歯学教育カリキュラム改革に取り組みました。文部科学省大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢化社会の到来に対応できる歯科医師の養成」に幹事校として尽力し、最高のS評価をいただきました。一丸となって取り組んだ成果を評価していただいたことは望外の喜びでした。医系総合大学の歯学部という恵まれた環境で、チーム医療で活躍する歯科医師の養成を目指し教育に携われたことを幸せに思います。諸先生方、支えてくださった皆様により感謝を申し上げます。昭和大学の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 定年退職者（教授）特別寄稿

## 口の中の大きな未来

歯学部  
歯科矯正学講座  
(歯学部長)

### 榎 宏太郎



私は1978年に歯学部の2回生として入学しました。上條講堂で入学式を終え、バスで富士吉田に向かったのをつい昨日の事のように思い出します。卒業後は、その講義に惹かれて福原名誉教授主宰の歯科矯正学講座に入局し、その後、UCSF（米国）への留学をはさみ、2003年からは柴崎名誉教授の後を継いで三代目の教授職を拝命しました。その後、2013年から歯科病院長、2019年からは歯学部長を務めさせて頂きました。研究テーマは顎顔面の生体力学ですが、産学の数多くの皆様のご協力を得て、コーンビームX線CT、患者ロボット、口腔内センサーなど様々な新規技術の開発に携わることが出来ました。実にワクワクする素晴らしい日々の連続でした。生きるための術どころか大きな夢まで与え続けてくれた本学への感謝と愛惜は、言葉では言い表すことが出来ません。今後は特任教授として新学科の設立準備に当たらせて頂きます。本学のさらなる発展を心より祈念致しております。

## 画像診断の向上に 携わって

歯学部  
口腔病態診断科学講座 歯科放射線医学部門

### 荒木 和之

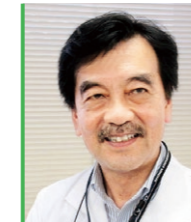


1996年4月に昭和大学に赴任し、以来あっという間に27年がたちました。私が無事定年を迎えられたのも2名の恩師、九州大学の神田重信教授、昭和大学の岡野友宏教授のおかげです。心より感謝いたします。昭和大学赴任後は、研究、教育、臨床にと邁進してまいりました。研究面では、画像診断をよりよく改善していくことを目標として、基礎的な特性や診断精度を高める方法の検討をおこなってきました。ニューラルネットワークによる画像診断の研究や、岡野教授に加え歯科矯正学講座の榎教授にもご指導いただき、歯科用コーンビームCTの開発にも参加させて頂きました。今では歯科用コーンビームCTは歯科診療になくはならないものとなっています。また、光干渉画像診断法の口腔領域への応用など新しい画像診断法の開発も検討してきました。このように、私が昭和大学で有意義な人生をおくれたのは皆様のご支援、ご協力によるものです。この場を借りて感謝いたしますとともに、昭和大学のますますのご繁栄を祈念申し上げます。

## 恵まれた環境に感謝！

歯学部  
高齢者歯科学講座

### 佐藤 裕二



21年前に広島大学から赴任させていただきました。時代の流れに合わせて、総義歯学教室から高齢者歯科学教室に改名され、赴任前に1年間の教授不在の期間があり、あたらしい教育、診療、研究の立ち上げに苦労しましたが、温かい先輩方や、素晴らしい教室員にめぐまれ、順調に教室は成長できました。また、若輩にもかかわらず、広報委員長、教育委員長、研究科運営委員長、副院長などを拝命し、しっかりと勉強させていただきました。研究の大部分を当講座内で指導し、大学院生44名を含めて61名が学位を取得し、退任後も13名の大学院生を残しています。10冊の筆頭の著書の出版や、テレビ、ラジオ、新聞への出演の機会も得ました。学会活動も活発に行うことができ、いくつかの学会で理事・常任理事を務め、日本老年歯科医学会では理事長をさせて頂き、学術大会を主催できました。これもひとえに、教育・臨床・研究・対外活動において、昭和大学という恵まれた環境にあっただけで深く感謝いたします。ありがとうございます。新年度より「口腔機能管理学部門」に改称する講座および昭和大学のますますの発展を心より願っています。

## 麻酔を通して 医療を行えた充実感

歯学部  
全身管理歯科学講座 歯科麻酔科学部門

### 飯島 毅彦



私は2011年4月に昭和大学に赴任しました。私は生まれたところが大岡山の産院であり、母の実家が自由が丘だったので生地に帰ってきた気持ちで当時は付近の散策を楽しみました。歯科病院には多くの患者が来院し、歯科で麻酔を必要とする様々な患者さんに麻酔を通して医療を行えたことには充実感を覚えます。昭和大学は医学部も含めた他学部との交流も深く、特に附属病院では歯科麻酔科医を目指す医局員を広く受け入れていただけたことに感謝しています。そのおかげで歯科麻酔科専門医も数多く輩出することができ、歯科の麻酔症例は附属病院を含めて日本で一番多く行えています。最後に忘れてはならないことは学生教育に対する姿勢です。大学・法人のトップの先生方がワークショップで発言される姿を見て、医療人を育てる大学の目的である教育に対する深い熱意に感服しました。これからも益々、発展されることを期待しております。



# Press Release

昭和大では最新の研究結果を外部(マスメディア)に発信しています。  
ここでは、プレスリリースとして発信した記事をご紹介します。

## 日本初! 薬学部で臨床薬剤師教育VRを共同開発 入院患者対応スキルを卒前教育で実践



**昭**和大学(東京都品川区、学長:久光正)と株式会社ジョリーグッド(東京都中央区、代表取締役:上路健介、以下ジョリーグッド)は、病棟薬剤師の患者対応スキル向上を目的とした「臨床薬剤師教育VR」を共同開発した。なお、薬学部でVR教材を独自に製作していくのは「日本初の試み」となる。

近年、正確性とスピードを備えた調剤機器の導入拡大に伴い、より高度な薬に関する知識や専門性を活用した、患者さんとのコミュニケーション能力が求められるなど、薬剤師の担う役割が急激に変化している。

それにいち早く適応した病棟薬剤師に求められる入院患者対応スキルを卒前教育で実践するため、今回共同開発したVR教材では、患者さんの入院から退院までの流れに沿った臨床シナリオにて、役割の変化に応じた患者さんとのコミュニケーション能力を様々なシチュエーションにより、主体的に学習することができる。

今回、昭和大薬学部では「臨床薬剤師教育VR」シリーズの第1弾として、「入院患者への初回面談及び持参薬確認」のVR教材を開発(独自に製作)し、臨床シミュレーション教育(シチュエーション・ベースド・トレーニング)に導入する形で、薬学部4年生(197名)への教育実践に活用した。今後、続編製作とともに、VR教材の教育効果を実証していく予定。また、開発したVR教材はジョリーグッドが提供する医療福祉VR総合プラットフォーム「JOLLYGOOD+(ジョリーグッドプラス)」にて公開する。これにより、JOLLYGOOD+会員なら全国どの医療機関でも活用可能となる。

### ■臨床薬剤師教育VR概要

今回共同開発した「臨床薬剤師教育VR」シリーズは、既存の臨床シミュレーション教育プログラム(シチュエーション・ベースド・トレーニング)に、臨場感のあるVR教材を導入することで、薬剤師の実践的な臨床能力のさらなる養成を狙ったもの。今回、その第1弾として、「入院患者への初回面談及び持参薬確認」の2種類のVR教材を製作した。今後、入院患者の退院までの流れに沿った「薬効評価や副作用モニタリング」「医療スタッフへの情報提供」等のVR教材を製作する予定。



1「入院患者への初回面談」のVR動画(一部抜粋) 2教育実践の様子

### ■コンテンツ内容

- 臨床薬剤師教育VR「入院患者への初回面談」  
(肺がん疑いで入院された患者さんに対する担当薬剤師の初回面談のVR動画)
- 臨床薬剤師教育VR「入院患者への持参薬確認」  
(肺がん疑いで入院された患者さんに対する担当薬剤師の持参薬確認のVR動画)

### ■昭和大 薬学部 薬学教育学講座 亀井大輔 准教授コメント

昭和大薬学部では臨床薬剤師育成プログラムが確立されており、日々、教育プログラムの質的向上を図っています。今回、私達は、この教育プログラムに、VRや映像等の最新技術を導入し、薬学生が臨床での患者対応や薬物療法の評価等のリアリティを追体験することを通して、薬剤師の実践的な臨床能力を養成することを目的とした「臨床薬剤師教育VR」シリーズの開発を行いました。

本VR教材では、VR技術の特徴を活かして、患者状態を把握するために重要な「患者の表情、仕草、身体の様子、そして病室のベッド周りの状態等」の実践的な非言語情報の収集も学修できる利点があります。今後、VR技術を活用した教育設計は、シンプルな技能修得の目的だけでなく、患者対応スキルの修得や教育成果の評価にも応用できると考えています。

※本取り組みは、昭和大薬学部が文部科学省の令和3年度補正予算事業「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択された事業の一環。

リリース時タイトル/日本初!昭和大とジョリーグッドが臨床薬剤師教育VRを共同開発!ウイズコロナ時代の新たな教育スタイルを提案

## 「医工連携」目指し、臨床ニーズと企業技術の マッチング会で学生が60社に提案 将来的には製品化も



**昭**和大学(東京都品川区、学長:久光正)は、2022年10月19日(水)に東京都医工連携HUB機構(以下、HUB機構)と共催で、学生ニーズ提案会を開催した。また、同年11月17日(木)に開催された、医療従事者のニーズと企業の技術をマッチングし、新たな製品開発につなげる場である昭和大臨床ニーズマッチング会にて、学生から60社に対し、ニーズの提案を行った。

「医工連携」とは、医療に関わる新技術の研究開発や、新事業の創出を図ることを目的に、大学などの教育機関・研究機関、民間企業の医療関係者と工学関係者が連携すること。医療分野では次々と新しい技術、製品が開発され、「医工連携」が注目されている。昭和大では、2022年10月19日(水)に医工連携への取組みとして、HUB機構と共催で学生ニーズ提案会を開催した。本会は、「学生生活を送る上で感じる様々な不便に思うことを改善するアイデア」、「臨床現場の実習を通じて感じた患者さんや医療スタッフ、病院のための工夫に関するアイデア」などをグループ討議で具現化し、製品化を目指すことを目的としたもの。

医学部2名、歯学部3名、薬学部4名、保健医療学部2名の計11名の学生が参加し、本学教育職員4名、HUB機構コーディネーター2名を交え、学部や学年を越えた活発な議論の結果、7つのニーズについて提案がなされた。そのうち2つのニーズは11月17日(木)に、HUB機構と共催の昭和大臨床ニーズマッチング会にて、学生から約60の企業に対しプレゼンテーションを行った。その他のニーズについても、HUB機構のWEBサイトに掲載され、今



1 2 学生ニーズ提案会でのディスカッションの様子 3 昭和大臨床ニーズマッチング会11月17日の部後の集合写真:左から、薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門 肥田典子教授、木内祐二副学長、医学部5年 小野向日葵さん、歯学部3年 北見智草さん、統括研究推進センター 塚田愛講師、統括研究推進センター 三邊武彦センター長

後はマッチングした企業と連携して、製品化を目指していく。

### ■昭和大臨床ニーズマッチング会で提案されたニーズと提案者

- 服薬管理しやすい薬の収納商品(医学部5年 小野 向日葵さん)
- 医療学生のためのタスク管理アプリ(歯学部3年 北見 智草さん)

リリース時タイトル/昭和大が医工連携への取組みとして学生ニーズ提案会を開催

## 地域保健医療の実践・教育の分野における 先駆的諸活動に対し、昭和大上條医療賞を贈呈



**公**益財団法人昭和大医学・医療振興財団(東京都品川区・理事長 山元俊憲)は、このほど2022年度の昭和大上條医療賞受賞者を発表し、授賞式が昭和大上條記念館で執り行われた。

昭和大医学・医療振興財団は、国民の健康増進と医学・医療の発展に貢献するために設立された公益財団法人。その事業の一つとして2014年度に創設した顕彰事業「昭和大上條医療賞」は、地域保健医療の実践及び教育の分野において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果を挙げた個人またはグループを顕彰するものである。昨今は、助成を条件として特定の分野に限って顕彰する形式の事業が一般的となっているところ、本事業は、国民の健康増進と医学・医療の発展に貢献する取組みを広く対象として顕彰しており、同財団の理念を体現した特色といえる。今年度



1 (左から)山元俊憲理事長、川村益彦氏(受賞者)、林泉彦氏(推薦者:オンライン) 2 (左から)山元俊憲理事長、木庭雄至氏(受賞者)、新井一成氏(推薦者) 3 (左から)山元俊憲理事長、山田光彦氏(受賞者)、張賢徳氏(推薦者)

の受賞者は次のとおり。

#### ■第9回「昭和外條医療賞」(2022年度顕彰事業)受賞者

○高齢者の在宅療養を支える～町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト～／町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会代表 川村益彦氏 (医療法人社団 幸益会 理事長)

○地域救急医療体制の円滑な運営／木庭雄至氏 (東大和病院 副院長)

○救急医療から地域へとつなげる自殺未遂者支援：人材育成の取り組み／山田光彦氏 (国立精神・神経医療研究センター 部長)

リリース時タイトル／昭和大学医学・医療振興財団が第9回昭和外條医療賞の授賞式を開催

## リンパ管壁のタンパク質分解が全身の免疫バランスに波及 新たな血管保護の仕組みを解明



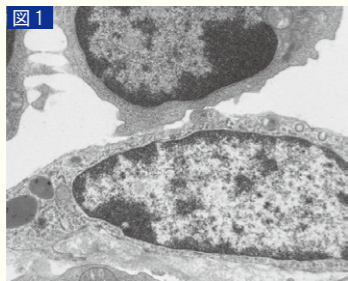
昭和大学(東京都品川区／学長：久光正)の宮崎拓郎准教授(医学部生化学講座)、宮崎章教授(同)を中心とした研究グループは、東京大学、愛知医科大学、ロンドン大学との共同研究により、細胞内プロテアーゼ「カルパイン」による過剰なタンパク質分解によりリンパ管に起因する免疫抑制が低下し、血管にて動脈硬化症を引き起こされる仕組みを世界で初めて明らかにした。本研究結果は、2022年12月15日(米国東部標準時間)に米国心臓協会誌「Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology」(impact factor 10.514)のオンライン版に掲載された。なお、本成果は同誌2023年2月号のEditor's pickに選出され、Editorial (Lyu Q, Ley K. Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2023; 43: 215-217)にて特集された。

#### ■研究の背景

体内のコレステロールが過剰な状態は脂質異常症と呼ばれ、その影響で血管壁や肝臓などで軽度の炎症が生じ、動脈硬化症や肝疾患の原因となることが広く知られている。また、リンパ管は小腸などの主要臓器やリンパ節を繋ぎ、免疫細胞や食物中の脂質成分の輸送経路になることが知られている。近年、脂質異常症の存在下でリンパ管機能が低下し、これが動脈において動脈硬化症の発症・進展に寄与するとの報告が相次いでいる。

#### ■研究成果

研究グループは遺伝子改変マウスの解析を基に、過剰なコレステロールの摂取がリンパ管壁の細胞(リンパ管内皮細胞：図1)の制御異常を引き起こし、これが免疫抑制性のリンパ球(制御性T細胞)の不安定化に繋がることを解明した。制御性T細胞はTGF-β1と呼ばれるサイトカインによって維持・安定化されるが、脂質異常症に伴い生じるリゾリン脂質がリンパ管内皮細胞内に存在するプロテアーゼ「カルパイン」を活性化し、TGF-β1産生の関連因子を分解することが一因となる。TGF-β1産生低下により、全身的に制御性T細胞の数が減少し、動脈におい



脂質異常症マウスのリンパ管内皮細胞(下)とリンパ球(上)のドッキング

て炎症応答が促進され、動脈硬化症が増悪化する。

#### ■研究の意義

脂質異常症によりリンパ管自体にどのような機能異常が引き起こされるか、詳細は明らかになっていなかった。本研究により、脂質異常症におけるリンパ管内皮細胞の機能異常は制御性T細胞の安定化に拮抗し、少なくとも動脈の免疫抑制を低下させることが明らかとなった。抗カルパイン薬はすでにアルツハイマー型認知症などで創薬研究が実施されており、今後上薬剤が心血管代謝疾患にも応用されることが期待される。

#### ■本研究への支援

本研究は日本学術振興会 科研費基盤B (22H03520: 研究代表者 宮崎拓郎)、科研費基盤C (21K08585: 研究代表者 宮崎章、19K08590: 研究代表者 宮崎拓郎)、ブリストルマイヤーズスクイブ研究助成(研究代表者 宮崎拓郎)、personal chair grant from the British Heart Foundation (CH/11/3/29051: 大津欣也)、鈴木謙三記念医科学応用研究財団研究助成(研究代表者 宮崎拓郎)、内藤記念科学振興財団研究助成(研究代表者 宮崎拓郎)、持田記念医学薬学振興財団研究助成(研究代表者 宮崎拓郎)の支援を受けて実施された。

リリース時タイトル／リンパ管壁のタンパク質分解が全身の免疫バランスに波及する -- 新たな血管保護の仕組みを解明 --

掲載誌／米国心臓協会誌「Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology」(impact factor 2021: 10.514) (オンライン掲載 12月15日 米国東部時間)

掲載論文の表題／Hypercholesterolemic Dysregulation of Calpain in Lymphatic Endothelial Cells Interferes With Regulatory T-Cell Stability and Trafficking (和訳: 脂質異常症に起因するリンパ管内皮細胞のカルパイン機能異常は制御性T細胞の安定性と体内動態に拮抗する)

著者／Takuro Miyazaki, Yoshitaka Taketomi, Takayoshi Higashi, Hirokazu Ohtaki, Takashi Takaki, Koji Ohnishi, Masahiro Hosonuma, Nozomu Kono, Risako Akasu, Shogo Haraguchi, Joo-Ri Kim-Kaneyama, Kinya Otsu, Hiroyuki Arai, Makoto Murakami, Akira Miyazaki (\*Corresponding author) (和訳: 宮崎拓郎\*, 武富芳隆、東鷹美、大滝博和、高木孝士、大西紘二、細沼雅弘、河野望、赤須里沙子、原口省吾、金山朱里、大津欣也、新井洋由、村上誠、宮崎章 (\*Corresponding author))

DOI／https://doi.org/10.1161/ATVBAHA.122.317781

## ウェアラブルデバイスとアプリで 心疾患患者の運動習慣の獲得を支援 新たに開発した運動サポートツールによる共同研究を開始



昭和大学藤が丘病院循環器センター循環器内科の磯良崇准教授らは、横浜市立大学大学院医学研究科リハビリテーション科学の中村健教授および大学院生の岡村正嗣理学療法士らを代表とする研究グループと共同で、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の松田央郎准教授ら、NTTコミュニケーションズ株式会社および株式会社NTTデータ経営研究所をはじめとするNTTグループ(以下、「NTTグループ」)とともに、心疾患患者が維持期において運動を継続できるように、行動経済学の理論を用いた「運動サポートツール(スマートフォンアプリケーション)」(以下、本サポートツール)を開発した。研究グループは2022年12月より、本サポートツールを用いた運動療法の有効性を検証する多施設共同研究を開始している。

#### ■背景

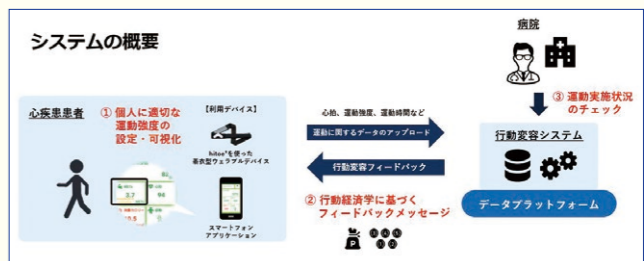
心疾患は日本人の死亡原因疾患の第2位であり、再発率・再入院率が高いことが知られている。また、定期的な運動を含んだ心臓リハビリテーションは、心疾患の再発・再入院予防に効果があることが立証されている。しかし、日本の医療保険制度では、心疾患の発症から150日間が経過した「維持期」において十分な心臓リハビリテーションが実施できていない現状がある。

#### ■共同研究の概要

本サポートツールを使用することによって普段の運動量や体力(運動耐容能)が向上するか、その後の再発・再入院が抑制できるかを、本サポートツールを使用する群と使用しない群とで比較・検討を行う。また本研究は、横浜市立大学、昭和大学、聖マリアンナ医科大学の3大学病院の心臓リハビリテーション実施患者を対象として実施し、データの解析は横浜市立大学が一括して行う。また、NTTグループは、本サポートツールの開発や機器の提供に関わる。

#### ■本サポートツールについて

本サポートツールはhitoe<sup>®</sup>\*1を使った着衣型ウェアラブルデバイスとスマートフォンアプリケーションから構成され、各患者の状況に適した運動目標を設定することができ、日々の運動実績に対



システムの概要

して適宜フィードバックをすることが可能。

今後は、心疾患患者を対象とした運動サポートツールの効果を検証する研究を進め、運動習慣の獲得を促進し、普段の運動量の向上、再発・再入院率の低下に繋がるアプローチ方法の開発を目指す。また、NTTグループは本共同研究の成果を成果連動型民間委託契約方式(PFS)<sup>\*2</sup>など自治体が継続的に取組める社会実装の検討に活かしていく。

#### ■各機関の役割

○横浜市立大学、昭和大学、聖マリアンナ医科大学  
…スマートフォンアプリケーションの開発、多施設共同研究の実施、患者を対象としたデータの分析による運動習慣の獲得および身体機能の改善に対する効果の検証

○NTTグループ：NTTコミュニケーションズ、NTTデータ経営研究所  
…スマートフォンアプリケーション等の開発(日本電信電話株式会社が技術支援)、hitoe<sup>®</sup>を使った着衣型ウェアラブルデバイスの提供

リリース時タイトル／【昭和大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・NTTグループ】心疾患患者の運動習慣の獲得を支援 -- 新たに開発した運動サポートツールによる共同研究を開始

#### 用語説明／

- \*1 hitoe<sup>®</sup>：日本電信電話株式会社と東レ株式会社が開発した機能素材。最先端繊維素材であるナノファイバー生地に高導電性樹脂を特殊コーティングすることで、非金属素材でありながら生体信号を高感度に検出できる。
- \*2 成果連動型民間委託契約方式(PFS)：行政課題の解決に対応した成果指標を設定し、成果指標値の改善状況に連動して委託費などを支払う、内閣府が推奨する新たな官民連携の手法。

# 傷の修復に関わる新たなメカニズムを発見 皮膚細胞機能がクロライドイオンにより制御される



**昭**和大学医学部生理学講座生体制御学部門の高山靖規講師、自然科学研究機構 生理学研究所／生命創成探究センターの富永真琴教授、製薬メーカー 株式会社池田模範堂の山野井遊博士、京都薬科大学の細木誠之准教授、立命館大学の丸中良典客員教授（京都工場保健会総合医学研究所長）らの共同研究グループは、TRPV3がクロライドイオンチャンネルであるANO1の活性化を介し、表皮細胞の増殖・移動を促進することを明らかにした。本研究結果は、Communications Biology (2023年1月23日号)に掲載されている。

## ■今回の発見

1. 表皮細胞において、TRPV3がANO1を活性化することを明らかにした。
2. ANO1によるクロライドイオンの細胞内への流入が傷の修復に関わる細胞機能に重要であることを明らかにした。

## ■概要

擦り傷、切り傷などで皮膚が傷ついた時には皮膚の表面を覆っている表皮細胞が削り取られてしまい、その下にある真皮と呼ばれる敏感な組織が露出することで痛みを感じる。また、この真皮には無数の血管があるためこれらが破けることで出血を起こす。このような傷が治る際には傷の周囲に残った表皮細胞が増殖し、傷口を再度覆うように移動することが知られている。これまで、この表皮細胞の増殖・移動には温度感受性TRPチャンネルの1つであるTRPV3が関わるということが知られていたが、このTRPV3がどのように細胞の機能を制御するのかはよく分かっていなかった。

これまで富永真琴教授らのグループは、他のTRPチャンネル（TRPV4やTPRV1）が同じ細胞にあるクロライドイオンチャンネルであるANO1を活性化することを発見していたが、TRPV3とANO1の関係や、ANO1がクロライドイオンと傷の治癒の関係は、分かっていなかった。表皮細胞にはTRPV3もANO1もあることから、今回の研究では、TRPV3の活性化がANO1の活性化を誘導する可能性について検討した。ヒト表皮細胞を用いて実験を行った結果、TRPV3を活性化する成分であるカンフル（樟脳）を表皮細胞に作用させるとクロライドイオンに由来する電流が流れ、ANO1チャンネルの働きを阻害する薬剤を加えた時にだけ、電流が小さくなることが確認された（図1）。このことはTRPV3の活

性がANO1の活性化を誘導し、クロライドイオンチャンネル由来の電流が流れていることを示している。

さらに、人工的に傷の治りを模した実験で表皮細胞の動きを観察するとANO1の働きを阻害する薬剤の存在下では表皮細胞の動きが遅くなり、増殖も抑制されることが分かった（図2）。同様の実験を、クロライドイオンを減らした培養液の中で行うとANO1の働きを阻害した場合と同じように、表皮細胞の動きが遅くなり、増殖も抑制されることが分かった（図3）。さらに表皮細胞内のクロライドイオン濃度を測定したところ、細胞外のクロライドイオン濃度よりも低く保たれていることが分かった。

これらのことからTRPV3により活性化されたANO1を介してクロライドイオンが細胞内へ流入することが、表皮細胞による傷の修復に重要と考えられる。

ANO1がクロライドイオンと傷の治癒の関係はこれまで注目されておらず、今回の結果が更なる傷の治りのメカニズム解明に役立ち、新たな傷の治療法の開発につながるものと期待される。

本研究は文部科学省科学研究費補助金の補助を受けて実施された。

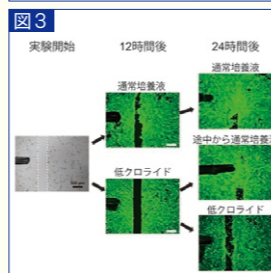
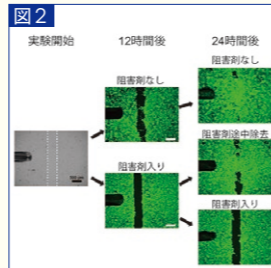
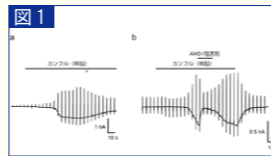
**リリース時タイトル**／【昭和大学・自然科学研究機構 生理学研究所／生命創成探究センター・株式会社 池田模範堂・京都薬科大学・立命館大学】傷の修復に関わる新たなメカニズムを発見 -- 皮膚細胞機能がクロライドイオンにより制御される

**掲載誌**／Communications Biology 6, Article number: 88 (2023)

**論文タイトル**／TRPV3-ANO1 interaction positively regulates wound healing in keratinocytes

**著者**／Yu Yamanoi, Jing Lei, Yasunori Takayama, Shigekuni Hosogi, Yoshinori Marunaka, Makoto Tominaga

**DOI**／<https://doi.org/10.1038/s42003-023-04482-1>



# News & Topics

2022.12.23

式典・行事 | 薬学部 | 保健医療学部

## 臨床実習に向け、白衣授与式を挙 薬学部186名、保健医療学部165名が心構えを新たに

12月23日に保健医療学部、1月11日に薬学部で令和4年度白衣授与式を上條記念館にて挙行了。同式は、臨床実習に臨むにあたり白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚や心構えを促すことを目的に毎年実施している。今年度も新型コロナウイルス感染症防止のため、必要な措置を講じたうえで執り行われた。

### 【薬学部】

中村明弘薬学部長は告辞で、「現場に接し、今まで学んだ知識・技能・態度を活かし、医療に貢献するための実践を重ねてください。今年度より薬学部のカリキュラムが改められ、6年次前期まで本学附属病院において臨床実習および研究ができるようになりました。この機会を存分に活かし、主体的に目標をもって新しい時代の薬剤師を目指して研鑽を積んでください」と述べた。

4年生186名は真新しい白衣を身に付け、これから始まる臨床実習への決意を新たにした。

### 【保健医療学部】

鈴木久義保健医療学部長は告辞で、「臨床実習の場は患者さんにとっては療養の場です。患者さんやそのご家族を第一に行動してください。真摯な態度で臨む実習は、机上での学習では決して



得られない、将来の医療人たる皆さんを形作る貴重な体験となるでしょう。同級生と大いに助け合い、ご家族の支援に感謝し、一日一日を大切に、皆さんが『至誠一貫』を体現できる看護師・理学療法士・作業療法士になれるようお祈りしております」と述べた。

2年生165名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。今後は本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場において、看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの役割を学んでいく。

式前後の時間を利用して2年生とその引率教員がミュージアムを見学した。ミュージアムスタッフの説明に耳を傾け、熱心に展示物やパネルを見て回り、教育職員から「白衣授与式当日にミュージアムを見学するのは、臨床実習への気持ちが引き締めるとも良い」との感想があった。

2022.11.3

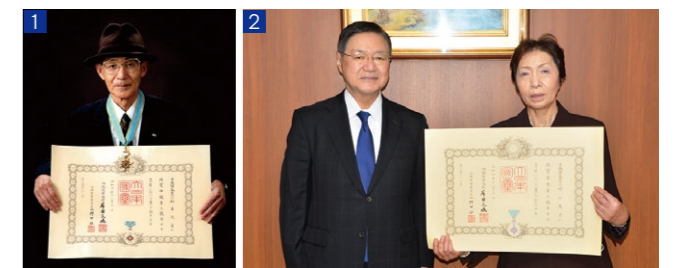
受賞・表彰

## 令和4年秋の叙勲 松本光吉名誉教授が瑞宝中綬章、 崎山恵子氏が瑞宝単光章を受章

令和4年秋の叙勲受章者が11月3日に発表され、松本光吉名誉教授が瑞宝中綬章、崎山恵子氏が瑞宝単光章を受章した。

松本名誉教授は、昭和58年3月に昭和大学歯学部教授に就任され、本学歯学部の創成期から長きにわたって教授を務め、昭和大学図書館長も兼任、学外では、厚生省中央薬事審議会委員や文部省科学研究費審査委員など、国の公的委員も長く務められた。この間、歯科医療・歯科医学の発展に努めるとともに、長年にわたり学生教育に尽力した功績が評価され、このたびの受章となった。

崎山氏は、昭和55年4月に昭和大学病院に入職後、循環器病



1 松本光吉 名誉教授 2 小川良雄 総務担当理事、崎山恵子氏

棟をはじめ、神経内科病棟、婦人科病棟、整形外科病棟、眼科・皮膚科混合病棟など多くの診療科において従事された。平成7年4月から看護婦長（現：看護師長）として、東病院、藤が丘病院、烏山病院にて従事され、本学附属病院の変革の時期に看護の質の向上に貢献するとともに、看護管理者として病院運営に尽くした功績が評価され、このたびの受章となった。

## 第43回日本臨床薬理学会学術総会で 優秀演題賞を受賞

「お薬手帳アプリ」の開発を目的とした研究で

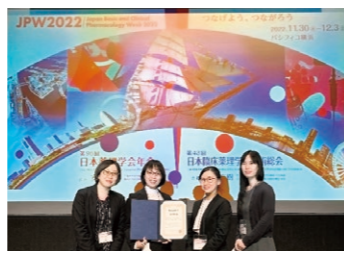
滝伊織助教(薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門)が第43回日本臨床薬理学会学術総会(2022年11月30日~12月3日:パシフィコ横浜)で優秀演題賞を受賞した。日本臨床薬理学会は、1970年に前身の臨床薬理研究会として発足、1980年に現在の学会に発展して設立された。同学会では薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、個々の患者さんに最良の治療(治療の個別化)を提供できることを目指している。同学術集会では45歳以下の日本臨床薬理学会会員の中から特に優秀な演題に「優秀演題賞」が授与され、滝助教は「精神科患者さんのための服薬支援ツール開発に向けた医療者・患者のニーズ調査」のポスター発表が高く評価され、同賞に選定された。

### 【滝伊織助教のコメント】

このような荣誉ある賞を頂き、大変光栄です。

当部門では患者さんが抱える困りごと(Unmet Medical Needs)の解消を目標に研究活動を行っております。この度、医療従事者、患者さんどちらにとっても有用な「お薬手帳アプリ」の開発を目的とした研究結果を発表いたしました。学会発表を通じ、多くの方に研究内容を知っていただくことができ、受賞とあわせて大変嬉しく思っております。なお、本調査は本学薬学部の学生とともに実施したものです。学生とも受賞の喜びを共有したいと思います。

また、日頃よりご指導いただいております肥田典子准教授、山崎太義講師、並びに臨床薬理研究所の先生方、ご支援いただきました皆様にご心より御礼申し上げます。今後も患者さんの困りごとを解決していけるよう、研究に精進してまいります。



会場での記念撮影。左から2番目:滝伊織助教、左から3番目:肥田典子准教授

## 未来を担う選手の育成・支援を目指し ジュニアアイスホッケースクール開催

11月23日、KOSÉ新横浜スケートセンターにて、アイスホッケーの未来を担うジュニア選手の育成や競技人口の拡大など青少年の育成支援を目的とし、神奈川県アイスホッケー連盟に加盟しているチームの女子ジュニア選手を対象に「昭和大学ジュニアアイスホッケースクール」を開催した。

講師として、本学職員の飯塚祐司(日本アイスホッケー連盟女子日本代表監督/人事部)、獅子内美帆(元女子日本代表選手/総務部)のほか、元男子日本代表選手(GK)の春名真仁さんを迎え、参加選手とともに汗を流した。

本スクールでは、受講者一人ひとりに丁寧に指導を行い、ゴールキーパーの指導においては、マンツーマン指導による基本動作の確認と実戦形式の指導を行った。

今後も継続的にアイスホッケーの普及と次世代の選手育成に貢献していく。



1 2 3 スクールの様子  
4 記念撮影

## 日本女性医学学会 学会奨励賞を受賞 HPVワクチンの有用性評価の研究成果で

小貫麻美子講師(医学部産婦人科学講座)が日本女性医学学会2022年度学会奨励賞を受賞し、第37回日本女性医学学会学術集会(11月12日・13日:鳥取県米子市米子コンベンションセンターおよびWEBのハイブリッド開催)において授賞式および受賞講演が行われた。同賞は女性医学分野に関する優れた研究業績をあげた研究者に対して授与されるもの。小貫講師は、子宮頸癌とその原因であるヒトパピローマウイルス(HPV)感染について長年研究しており、中でもHPVワクチンの有用性評価に関する研究成果が認められ、今回の受賞となった。

### 【小貫麻美子講師のコメント】

このたびは学会奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。常に臨床医の立場から子宮頸癌やHPV感染について、関沢明彦教授、松本光司教授をはじめ、多くの先生方や患者さんのご協力を得ながら臨床疫学・基礎の両面から研究を重ね、臨床の場にフィードバックできることを目指して参りました。この賞に恥じぬよう、さらに地道な努力を重ねていきたいと思っております。



左から、関沢明彦教授、小貫麻美子講師、松本光司教授

## 「苦しくもやりがいのある研修期間」 認定看護管理者教育課程(セカンドレベル) 45名が修了

11月19日、2022年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルの修了式を開催した。

今年度は45名が全課程を修了し、出席者27名に市川幾恵看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

修了生代表挨拶では、小川香野さんが苦しくもやりがいのある研修期間を振り返り、2023年9月の実践計画発表会への抱負を語った。

記念撮影後、修了者による懇親会が行われ、受講期間中オンラインでも併研した仲間と初めての対面でのコミュニケーションで大いに親睦を深めた。



1 修了生代表の挨拶:小川香野さん 2 記念写真

## 退寮前の思い出づくりイベント 花火やダンスなどを楽しむ

11月25日(金)~27日(日)の3日間、富士吉田キャンパスでWinter partyを開催した。メインスローガンは「LAST」。学生たちは、完全退寮を間近に控え、寮生活最後の思い出となるWinter partyを存分に楽しんでいた。

初日の25日にはライブ配信にてイルミネーション点灯式が行われ、キャンパス内に準備された電飾が一斉にキラキラと華やかな光を放つと、各寮自室にて配信を見ていた学生たちからは称賛の拍手が起こった。

26日・27日には、感染対策を徹底した上で、お化け屋敷、ダンスやバンドなど、学生たち手作りのイベントが盛りだくさんに行われた。

また、27日の昼食は、学生たちのアイデアにより、コロナ禍のため、なかなか交流機会を得られていない地元飲食店へお弁当を発注し、それぞれが選んだメニューの味に舌鼓を打っていた。

フィナーレは、色鮮やかな打ち上げ花火で締めくくられた。

1 ステージ~管弦楽団演奏~ 2 昼食~地元飲食店のお弁当~ 3 ステージ~アカペラ~  
4 ステージ~ダンス~ 5 キャンパス内のイルミネーション 6 色鮮やかな打ち上げ花火



### 第52回胃外科・術後障害研究会 優秀演題賞

**演題名** 「重度の併存疾患を有する胃癌に対するLECSの治療成績」  
**受賞者** 山崎公靖講師  
**所属** 医学部外科学講座消化器一般外科学部門  
**日程** 2022年11月18日～19日・ふじのくに千本松フォーラム  
**場所** ム プラサヴェルデ (静岡県沼津市)



左から、瀬戸泰之会長、山崎公靖講師

### 第16回肝臓内視鏡外科研究会 優秀演題賞

**演題名** 「手術支援人工知能システムを用いた腹腔鏡下肝切除術の実際とその展望」  
**受賞者** 富岡幸大助教  
**所属** 医学部外科学講座消化器一般外科学部門  
**日程** 2022年11月23日・福岡国際会議場  
**場所** ム プラサヴェルデ (静岡県沼津市)



左から田代良彦講師、青木武士教授、富岡幸大助教

### 第21回日本先進糖尿病治療・I型糖尿病研究会 若手研究奨励賞

**演題名** ①「緩徐進行I型糖尿病における新規膵島関連自己抗体測定キット(3 Screen ICA ELISA)の臨床的有用性の検討」、②「3回目の新型コロナウイルスワクチン接種後38日目に発症した急性発症I型糖尿病の1例」  
**受賞者** ①竹鼻伸晃助教、②音山友里恵さん  
**所属** ①医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門、②医学研究科1年  
**日程** 2022年10月8日～9日・神戸商工会議所会館およびWEBのハイブリッド開催



1 竹鼻伸晃 助教 2 音山友里恵さん

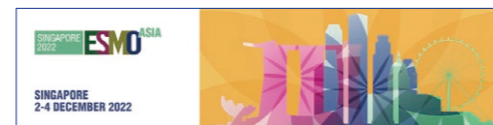
### 第90回神奈川県感染症医学会 学術奨励賞

**演題名** 「重症DICを合併した日本紅斑熱の1例」  
**受賞者** 榎原真子助教  
**所属** 医学部救急・災害医学講座  
藤が丘病院救命救急科  
**日程** 2022年12月3日・神奈川県立かながわ労働プラザ  
**場所** ム プラサヴェルデ (静岡県沼津市)



左から前田敦雄准教授、榎原真子助教、林宗貴教授

### 抗がん薬の体内動態における 性差について ESMO Asia Congress 2022で講演



今村知世准教授

今村知世准教授(先端がん治療研究所)がESMO Asia Congress 2022(12月2日～4日:サンテックシンガポールコンベンション&エキシビジョンセンターおよびWEBのハイブリッド開催)の特別セッションで座長および演者を務めた。

今村准教授は、European Society for Medical Oncology(ESMO) Gender Medicine Task Forceが企画した特別セッション「Sex and gender differences: Why they matter in oncology」において招待演者として「Sex differences in physiology, body composition, and pharmacokinetics」の

演題で講演を行い、抗がん薬の体内動態における性差について評価を行うとともに、責任著者として既に論文報告している「腎機能に基づくS-1用量算出式の構築に関する研究」において、性別が活性代謝物5-FUのクリアランスの影響因子として同定され、構築した用量算出式は性別によって異なることを紹介した。

### 「患者さんから信頼される看護師の育成」担う 保健師助産師看護師 実習指導者講習会修了式

12月19日、昭和大学横浜キャンパスにて神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会・昭和大学保健師助産師看護師実習指導者講習会の合同修了式を執り行った。鈴木久義 保健医療学部長は、受講生一人ひとりに修了証を授与したのち、閉講の挨拶として「患者さんから信頼される看護師の育成について、これから益々、皆さんにご尽力いただくことになります。どうか看護師育成、ご自分に課せられた責務の重さを自覚していただきながら、日々の業務に当たってほしいと思います」と述べ、今後の活躍への期待を示した。



1 修了証授与  
2 挨拶:鈴木久義 保健医療学部長  
3 修了生からの謝辞

## 創立100周年記念事業募金 ご支援のお願い

本学は令和10年(2028年)に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**お問い合わせ**

総務部企画課 企画サポート係

メール: kikaku@ofc.showa-u.ac.jp  
 電話: 03-3784-8387  
 FAX: 03-3784-8012

### 認定看護管理者教育課程(サードレベル)36名が修了 看護管理者としての活躍を誓い、 新たな一歩を踏み出す

1月14日、2022年度認定看護管理者教育課程サードレベルの修了式を開催した。

今年度は36名が全課程を修了し、出席者26名に市川幾恵看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

新型コロナウイルスの感染拡大状況により、受講期間中の仲間との交流はオンラインのみとすることを余儀なくされたが、この修了式の席で、共に研鑽を積んだ仲間と初めて対面し、懇親会では大いに親睦を深めている様子からは、固い絆が生まれていることが伺えた。

今後、研修生は、未来に看護をつなげていくため、それぞれの施設で看護管理者として活躍することを胸に誓い、新たな一歩を踏み出した。



1 修了証授与 2 記念写真 3 懇親会の様子



## 解剖学実習や外科的手技などを最先端技術で体験 「VR(バーチャル・リアリティ)を使ってみよう！」 セミナー開催

12月23日、旗の台キャンパス教育研修棟にて、医学部医学教育学講座主催の「バーチャル・リアリティ(VR)を使ってみよう！」セミナーを開催した。

対面のほか、オンラインでも参加することができ、学生・教育職員・事務職員など合わせて50名が参加した。

当日は、米国ケースウェスタンリザーブ大学のダニエル・サルシエド医師を講師にお招きし、「VRを活用した教育プログラム」と題し、VRの基本的な考え方や解剖学実習や外科的手技のほか、教材としての活用方法について、ご講演いただいた。

講演後、対面で参加した方は、実際にVRを装着し、臓器の立体構造が3D表示された場合の見え方を確認するなど、最先端のVR技術を体験した。



1 開会の挨拶(泉教授) 2 ダニエル・サルシエド医師による講演の様子 3 4 VR体験 5 閉会の挨拶(木内副学長)

## 「ウィズコロナ時代の新たな医療」へ向けて 医療手技を仮想空間上で学修可能な VRシステムを導入

本学医学部では、文部科学省の補助事業「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により、医療手技の手順を仮想空間上で学修可能な幻境VRシステム(幻境科技、中国)を購入した。

医学教育学講座(泉美貴教授、川原千香子准教授)が旗の台キャンパス教育研修棟2階に設置し、令和4年11月より開講した基礎臨床統合講義「呼吸器」ブロック(講座責任者:相良博典教授(内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門))の授業で使用。コースオーガナイザーの鈴木慎太郎准教授(同)の指導の下、計

2回にわたり呼吸器科診療に関連する気道確保と動脈血液ガス分析を医学部第2学年の学生が学んだ。

VRシステムにより、患者さんにとって侵襲性の高い医療手技の実施体験と新型コロナウイルス感染防止対策としてのソーシャルディスタンスの確保を両立することが可能であり、まさに補助事業の目的に沿った先端医学教育の実現に至った。

次年度以降は既存シミュレーターとの連携により、更に効率的な学修を計画していく。

VR体験の様子



## 教育職員と学生の相互交流を図り、イギリスの大学とは初めて ロンドン大学クイーン・メアリー校と 医学部間協定を締結

2022年11月17日(木)、本学医学部はロンドン大学クイーン・メアリー校(英国)と医学部間協定を締結した。本協定は、医学部にとって12番目の協定、英国の大学とは初めての協定となる。調印はオンラインで行われたが、ロンドン大学クイーン・メアリー校のAnia Korszun教授、Ian Mackenzie教授、Ali Ajaz講師の昭和大学への来校に合わせ、調印式を開催する運びとなった。

調印式では、橋本みゆき国際交流副センター長とAnia Korszun教授(Centre for Psychiatry)により、出席者の紹介と両者の

共同研究の取り組みから協定に至った経緯の説明があった。その後、宮崎隆国際交流センター長と小風暁医学部長、Sir Mark Caulfield副学長が協定書に署名した。最後に、来校したロンドン大学クイーン・メアリー校の皆様を囲んで記念撮影を行った。

両校は、今後教育職員及び学生の相互交流を行うことを予定している。

協定書と共に昭和大学での記念撮影の様子



## 科学研究費助成事業採択課題一覧

令和4年度の科学研究費助成事業交付内定額(5/1現在) ※延長課題は除く ※所属・役職は令和4年5月交付時点

令和4年度の科学研究費助成事業の交付は全体で312件が採択され、総計で3億880万円が交付される。各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■医学部：138件 1億3,293万円 ■歯学部：94件 1億280万円 ■薬学部：35件 3,390万円  
■保健医療学部：25件 1,570万円 ■富士吉田教育部：4件 330万円 ■研究所等：16件 2,020万円

今号では、保健医療学部と富士吉田教育部、研究所・法人の一覧、そして6/1以降採択分を掲載する。

### 保健医療学部

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基礎研究(C)	看護学科	教授	三村 洋美	400,000	高齢者のEOLケア基盤に関する研究-プロセスマップ策定と看護教育プログラム構築-
		教授	渡邊 知映	400,000	AYA世代乳がん患者の女性性サバイバーシップコホート研究と支援モデルの開発
		教授	富田 真佐子	1,100,000	オンライン診療と看護を組み合わせた炎症性腸疾患患者に対するセルフケア支援の構築
		教授(員外)	鈴木 浩子	1,100,000	デジタルコンテンツを用いた育児中の母親のメンタルヘルスケア支援プログラムの開発
		准教授	大木 友美	500,000	遠隔集中治療における患者回復アウトカムへつなげる看護ケアモデルの構築
		准教授	村田 加奈子	1,200,000	退院前から退院直後の移行期を支える効果的な訪問看護モデルの構築
		准教授	中田 晴美	400,000	若年女性における腹圧性尿失禁の実態と新しい生活様式下の骨盤底筋脆弱化予防戦略
		講師	本間 織重	800,000	外来でがん薬物療法有害事象評価シートを活用した診察前問診の有用性の検討
		講師	井出 由美	600,000	NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの普及と実用化研究
		講師	中村 綾子	200,000	実習指導者講習を修了した看護師を対象とした院内教育プログラムの開発
理学療法学科	准教授	池田 崇	1,600,000	心臓リハ患者に対するβヒドロキシβメチル酪酸カルシウムを併用した運動療法の効果	
作業療法学科	教授(員外)	作田 浩行	200,000	臨床実習のための反転授業の開発	
保健医療学教育学	講師	吉川 輝	800,000	脳損傷後の運動機能の回復を目指す運動療法の作用機序の解明	
看護学科	教授	大崎 千恵子	300,000	「報告・相談」技術向上を目指した、看護学生向けSBARツールプログラムの開発	
	教授	福地本 晴美	200,000	がん看護分野の専門看護師・認定看護師が地域と連携協働する看護ケアモデルの開発	
	准教授	大滝 周	200,000	看護基礎教育におけるバーチャルリアリティ手法を用いた教育方略の開発	
	講師	市村 菜奈	2,800,000	音楽に合わせた手指運動が脳血流や入院患者の認知機能へ与える影響の解明	
	講師	小泉 麗	200,000	機能的便秘のある幼児の母親の対処のプロセス	
	講師	鈴木 洋子	600,000	COVID-19後のリアリティショック-卒後2年目までの看護師に着目-	
若手研究	講師	平塚 克洋	400,000	胆道閉鎖症患者の療養生活の整えを支えるケアガイドラインの有用性と活用課題の検討	
	准教授	田代 尚範	300,000	人工呼吸器離脱の意思決定における横隔膜機能評価の臨床的有効性に関する研究	
理学療法学科	講師	鈴木 貞興	100,000	骨盤並進運動を指標とした体幹機能評価法の構築	
作業療法学科	准教授	渡部 喬之	500,000	トイレ動作自立判定のためのdual task評価システムの開発	
保健医療学教育学	講師	大久保 茂子	700,000	歯科技工士業務に伴うレアメタル曝露の肺障害に関する疫学的ならびに細胞生物学的解析	
大学院保健医療学研究科	准教授	的場 匡亮	100,000	医療機関と患者との価値共創に関する研究	

## 富士吉田教育部

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	富士吉田教育部	教授	高橋 留美	1,200,000	トピックモデルを適用した歯学系専門語彙集の作成
		教授(員外)	山本 雅人	600,000	赤外光による緑膿菌とアシネトバクター・パワマニの周辺空気からの非接触検出
		教授(員外)	宮本 洋一	1,000,000	歯周病の病態形成における活性イオウ分子種の機能解明
若手研究	富士吉田教育部	講師	大澤 恵里	500,000	残響下の時間聴覚に対する残響曝露の効果

## 研究所・法人

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	臨床薬理研究所	教授	和田 聡	4,100,000	高密度レクチンアレイを用いた腫瘍抗原における糖鎖構造の解明
	先端がん治療研究所	教授(員外)	鶴谷 純司	1,300,000	難治性腫瘍形成における葉酸受容体発現の機序と役割解明
基盤研究(C)	臨床薬理研究所	教授	吉村 清	1,000,000	免疫老化スコア化システムを用いた食道癌薬物療法の有効性予測
		准教授	倉増 敦朗	800,000	免疫チェックポイント阻害薬の抗腫瘍作用に対する抗ヒスタミン薬の増強効果
	講師	家口 勝昭	1,200,000	がん微小環境におけるEphA2/ephrin-A1を介した免疫回避の分子機構	
	発達障害医療研究所	准教授	太田 晴久	1,000,000	ASDにおける感覚異常の脳基盤をボトムアップ・トップダウン処理の両側面から検討
	准教授	中村 元昭	1,300,000	発達障害の腹側注意回路に対する経頭蓋磁気刺激の開発	
基盤研究(C)	上條記念ミュージアム	特任教授	小口 江美子	900,000	音楽運動療法を活用した地域医療福祉連携の認知症予防支援プログラムの開発と評価
	国際交流センター	講師	マイヤース マイケル	700,000	Study abroad and improved physician empathy in medical students
	統括研究推進センター	研究支援 専門職(URA)	須澤 徹夫	1,600,000	歯原性細胞に依存しないiPS細胞によるエナメル芽細胞誘導と歯胚作成技法の創出
研究支援 専門職(URA)		白澤 貴子	200,000	労働者における隠れ腹部肥満の疾病リスクに関する大規模前向きコホート研究	
挑戦的研究(萌芽)	臨床薬理研究所	教授	和田 聡	1,600,000	免疫チェックポイント分子の糖鎖構造の解析及び個別化治療への挑戦
	先端がん治療研究所	講師	酒井 瞳	2,100,000	HER2陰性乳癌脳転移・髄膜播種の薬物療法開発にむけた髄液ctDNA検査の研究
若手研究	臨床薬理研究所	講師	細沼 雅弘	800,000	非侵襲的冠動脈プラークイメージングによるSLEの急性冠症候群ハイリスク群の同定
	発達障害医療研究所	兼任講師	青木 悠太	900,000	発達障害の超診断的・生物学的サブタイピング

## 6/1以降新規採択課題

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
挑戦的研究(萌芽)	■歯学部/口腔生化学	教授	上條 竜太郎	2,400,000	神経堤由来細胞シングルセルゲノミクスを基盤とした効果的組織再生法の開発
	■発達障害医療研究所	講師	沖村 宰	2,400,000	精神障害患者の会話コーパス構築と発話特徴に基づいた診断支援AIの開発
研究活動スタート支援	■歯学部/歯科補綴学	助教(歯科)	柁 滯那	1,100,000	デジタル印象の精度・真度を補償するデバイスの開発および実用化に向けた戦略的研究
		助教	浦野 絵里	1,100,000	毛包内神経堤由来幹細胞による広範囲顎骨再建法の創成
	■歯学部/口腔外科学(顎顔面口腔外科学部門)	助教	天田 かおり	1,100,000	骨の生理的・病的酸性化がもたらす骨代謝の変化における骨細胞の役割の解明
		助教	堅田 凌悟	1,100,000	ダイレクトプログラミング技術によるヒト線維芽細胞より唾液腺細胞の誘導法の確立
	■歯学部/歯科矯正学	助教(歯科)	瀧澤 秀臣	1,100,000	神経堤幹細胞の多分化能を利用した新しい唇顎口蓋裂への治療方法の基盤構築
	■歯学部/全身管理歯科学(歯科麻酔科学部門)	助教	梶原 里紗	1,100,000	オプトジェネティクスを用いた咀嚼-唾液分泌機構の解明
	■薬学部/病院薬理学	助教(薬科)	山口 智亮	700,000	真菌由来天然物を用いた非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の新たな治療戦略の構築

## 総合型選抜入試・推薦入試・編入学入試 結果

令和5年度総合型選抜入学試験、学校推薦型選抜入学試験、卒業生推薦入学試験、編入学試験を旗の台キャンパスで実施し、合格者が決定した。

### 総合型選抜入試結果

学部	試験日	募集人員	志願者数	合格者数	
歯学部	1次:書類審査 2次:10月22日	5	41	6	
	薬学部	20	44	20	
保健医療学部	看護学科	1次:10月1日	7	47	9
	理学療法学科	2次:10月22日	6	20	8
	作業療法学科	6	7	6	

### 推薦入試・編入学試験結果

学部	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
医学部	学校推薦型		2 <sup>(※1)</sup>	2	2
	卒業生推薦		7	56	7
歯学部	学校推薦型		27 <sup>(※2)</sup>	41	22
	卒業生推薦		5	14	10
	編入学		若干名	6	2
薬学部	学校推薦型		46 <sup>(※2)</sup>	58	31
	卒業生推薦	11月26日	7	13	9
保健医療学部	学校推薦型		37 <sup>(※2)</sup>	73	37
	看護学科 卒業生推薦		3	1	1
	編入学		10	7	6
理学療法学科	学校推薦型		10 <sup>(※3)</sup>	14	7
	卒業生推薦		1	0	0
作業療法学科	学校推薦型		6 <sup>(※2)</sup>	2	2
	卒業生推薦		1	1	1

※1 特別協定校のみ ※2 特別協定校・指定校を含む ※3 特別協定校を含む

## 2023年度医学部附属看護専門学校 入学試験結果

医学部附属看護専門学校2023年度推薦入学試験、学士・短大学士選抜入学試験、一般選抜入学試験Ⅰ期、Ⅱ期をそれぞれ実施し、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

### 推薦入学試験、 学士・短大学士選抜入学試験

(試験日:2022年11月3日)

年度	2023年度	2022年度
募集人員 推薦	約70	約70
学士	約10	約10
志願者数 推薦	114	106
学士	42	48
合格者数 推薦	73	76
学士	23	25

### 一般選抜入学試験Ⅰ期

(試験日:2023年1月9日)

年度	2023年度	2022年度
募集人員	70	70
志願者数 男	21	17
女	169	187
計	190	204
合格者数 男	3	4
女	68	66
計	71	70

### 一般選抜入学試験Ⅱ期

(試験日:2023年3月1日)

年度	2023年度	2022年度
募集人員	若干名	若干名
志願者数 男	6	3
女	27	28
計	33	31
合格者数 男	0	2
女	5	9
計	5	11

1年次学生に聞きました

# 私たちが富士吉田で学んだこと、感じたこと

12月22日、1年次の学生585名が約8か月におよぶ寮生活に別れを告げた。学生たちは富士山麓の清涼な環境の中で過ごした寮生活の思い出を胸に、4月からは旗の台キャンパス・横浜キャンパスで学部毎に専門分野の授業が開始される。コロナ禍のため、行動制限がある寮生活となったが、たくさんの思い出ができた富士吉田キャンパスでの生活について、代表者に振り返ってもらった。



薬学部 猪瀬 亮太

## 二度と経験できない寮生活

4月、まだ雪が残っている、私の地元からは考えられないような光景が富士吉田にはありました。新しい生活が始まるなか、新型コロナウイルスの影響もあり寮生活には不安がありませんでした。しかし時間の流れと共にその不安が徐々に薄れていき、あっという間に1年次が終わってしまいました。

学修面で思い出深いことは初年次体験実習です。この実習では実際に病院を訪れて、医療現場に携わることができました。チームにも恵まれ、それぞれの学部が協力して医療従事者を目指す者としての深みを身につけることもできました。

また、生活面では、赤松寮の寮長として、寮監さんと日々問題があれば解決を目指し、寮をより良くするための会議を重ねてきました。その結果、努力も実り最高の寮生活となりました。

このような経験はこれからの人生において、もう二度と経験することのない大変貴重な機会であったと思います。指導担任の先生、寮監さん、友人、すべての方に感謝申し上げます。



保健医療学部 看護学科 笹原 麻衣

## 深めるチーム医療への理解

今年度の初年次体験実習では病院実習や地域医療入門演習、グループワークなどを行いました。私は中でも4学部混合チームによる病院実習が印象に残っています。

初めての病院実習は不安を抱えながらも、スーツ姿で昭和大学病院へと向かいました。病院では、さまざまな診療科や薬剤部、リハビリテーション室、医療連携室などの見学をさせていただき、実際の医療現場の様子や多職種間ではどのように情報共有や連携が行われているのかについて学ぶことができました。この体験は、自身の成長を実感することができた一方、課題が明らかとなった機会でもあったと感じます。実習から得た学びを今後に活かしていくと共に、将来、チーム医療を担う一員として患者さん一人ひとりのニーズに応えた医療を実践できるよう、医療現場での多職種の関わりやコミュニケーション、各職種の専門性について今後の学修を通して、さらに理解を深めていきたいです。



医学部 小方 美智子

## 願いの詰まったウィンターパーティー

カウントダウンの終わりとともにイルミネーション点灯のレパードが引かれ、私は思わず息のみました。暗闇が一瞬にして色とりどりの輝きに包まれる、その感動は今も鮮明に思い出されます。

寮で最後のイベントとなったウィンターパーティーでは、ステージや球技大会、お化け屋敷、花火等の様々な企画が行われ、とても楽しい時間を過ごすことができました。なかでも実行委員として担当した点灯式が、やはり深く印象に残っています。点灯式に関しては情報が少なく、また実施当日にはコロナの状況により大幅な変更を余儀なくされましたが、皆が楽しめる企画にできるよう試行錯誤を重ねました。その経験は、私自身を大きく成長させてくれたと感じています。コロナ禍で多くが制限され、もどかしい思いをしている中、少しでも楽しい思い出をつくらせたい、そんな願いの詰まったウィンターパーティーは、私だけでなく多くの学生の心に強く刻まれたことでしょう。

最後に、倉田先生をはじめとする諸先生方、事務課・ポライタ・寮監・食堂・生協の皆様、そしてご協力くださったすべての学生の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



歯学部 金井 萌

## 相手に歩み寄る大切さを学んだ寮祭

まだ桜の咲いていなかった富士吉田の4月、せっかくの寮生活なのだから、新しいことにチャレンジする!と決意して入寮したのを覚えています。その決意をもって、私は副実行委員長として寮祭に参加する機会を得ました。

副実行委員長を務めるうえで意識したことは、各部門の集まりに積極的に足を運び、部門員との交流を持つことです。SNS上だけでなく、対面してお互いの雰囲気や表情を知ること、フラットな関係作りを目指しました。

寮祭準備期間中は、それぞれが抱く寮祭への熱い思いがぶつかり合うことも多々ありましたが、相手に歩み寄る柔軟性や協調性を持つことの大切さに気づく良い経験となったように思います。

人生はじめての委員会所属で、慣れないことばかりで本当に大変でしたが、寮祭委員の関係者だけでなく、同室の仲間や友人が力を貸してくれて応援してくれたからこそ、良い寮祭を皆で作り上げることができたのだと思います。また、コロナ禍にも関わらず寮祭を開催するため尽力してくださった先生方や事務課の方々、本当にありがとうございました。



保健医療学部 理学療法学科 並木 結愛

## 視野を広げることができた場所

4月に入寮し、私の夢である大学生活が始まりました。たくさん貴重な体験をし、昭和大学を志望した理由の一つである富士吉田での寮生活は、私を大きく変えてくれたと考えます。一日中家族以外の人と過ごすという経験がなかったため、はじめは不安でしたが環境にも恵まれ、すぐに学科や寮の人たちと打ち解けることができました。フロア委員として人と関わる機会が多く、それもまた自分が成長できた理由の一つだと感じています。

フロア委員で点呼をする際に、新型コロナウイルスの感染対策をしっかりとしつつ、どの部屋も楽しそうな雰囲気です。毎日点呼をするのが楽しみでした。医療従事者は人と関わるのが主となるため、このような富士吉田での寮生活はとても良い経験になったと思います。沢山の人と関わることで、自分と違った意見や考え方が出会うことができ、視野を広げることができる場所だと思います。寮生活をより良いものにしてくださった先生、寮監さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



保健医療学部 作業療法学科 鈴木 颯太

## 協力することの重要性を学んだ初年次体験実習

4月に入寮した私たちはたくさんのことを富士吉田キャンパスで経験することができました。なかでも印象に残ったことは、初年次体験実習です。今年度の初年次体験実習は約3週間で学部連携グループワーク、学部実習、学部連携実習、地域医療入門、不自由体験、救命救急法実習を行いました。学部連携グループワークでは、前期に行ったチュートリアルと異なるテーマ、異なるメンバーで議論をし、発表を行い各学部の学生同士が協力することの重要性を感じる事が出来ました。学習だけでなくコンパでの活動などを通して様々な経験が出来た富士吉田での寮生活では、一人ひとりが異なる価値観を持っていることを感じました。将来私たちが携わる医療の現場は様々な患者さんやスタッフと関わり、真心を持った医療を提供しなければなりません。その際に富士吉田での経験が生かされていくと感じました。最後にこのような充実した環境を提供してくださったすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

# 就任のお知らせ



12月13日理事会承認



特任教授

小林 一女

現：医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座担当 教授  
〔勤務地：昭和大病院耳鼻咽喉科〕  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
理由：保健医療学部言語聴覚学専攻科開設準備のため



特任教授

鹿間 裕介

現：医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門担当 教授  
〔勤務地：昭和大藤が丘病院呼吸器センター（呼吸器内科）〕  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
理由：藤が丘病院呼吸器センター長のため



特任教授

橋本 東児

現：医学部放射線医学講座担当 教授  
〔勤務地：昭和大藤が丘病院内科系診療センター（放射線科）〕  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
理由：藤が丘病院内科系診療センター放射線科診療のため



特任教授

南淵 明宏

現：医学部外科学講座（心臓血管外科学部門）担当 教授  
〔勤務地：昭和大横浜市北部病院循環器センター（心臓血管外科）〕  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
理由：横浜市北部病院循環器センター長のため



特任教授

井上 晴洋

現：医学部外科学講座（消化器一般外科学部門）担当 教授  
〔勤務地：昭和大江東豊洲病院消化器センター（消化器外科）〕  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
理由：江東豊洲病院消化器センター長のため



特任教授

榎 宏太郎

現：歯学部歯科矯正学講座担当 教授  
〔勤務地：昭和大歯科病院矯正歯科〕  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
理由：保健医療学部歯科衛生学専攻開設準備のため

特任教授 継続 任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日

加賀美 芳和、岡本 健一郎、佐々木 忠徳、瀧本 雅文、米良 仁志、寺田 友昭、楯 玄秀、村上 雅彦、平井 康昭、中村 清吾、福成 信博、小出 良平、三邊 武幸、高橋 寛、小口 江美子、佐野 俊二 （以上16名）



医学部  
救急・災害医学講座担当  
教授

勤務地：昭和大江東豊洲病院救急センター（ER）（救急診療科）

佐々木 純

現：医学部救急・災害医学講座担当 准教授〔勤務地：昭和大江東豊洲病院救急センター（ER）（救急診療科）〕  
任命日：令和4年12月13日



教授（員外）

勤務地：昭和大国際交流センター

工藤 芳子

前：准教授〔勤務地：昭和大国際交流センター〕  
任命日：令和4年12月13日



昭和大江東豊洲病院  
脳血管センター  
脳神経内科診療科長

勤務地：昭和大江東豊洲病院脳血管センター（脳神経内科）

栗城 綾子

現：医学部内科学講座（脳神経内科学部門）担当 准教授〔勤務地：昭和大江東豊洲病院脳血管センター（脳神経内科）〕  
任命日：令和4年12月13日

1月10日理事会承認



昭和大歯学部部長

馬場 一美

現：歯学部歯科補綴学講座担当 教授  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日



昭和大  
看護キャリア開発・  
研究センター長

増田 千鶴子

現：昭和大統括看護部長  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日



昭和大  
口唇口蓋裂センター長

門松 香一

現：昭和大口唇口蓋裂副センター長、医学部形成外科学講座担当 教授〔勤務地：昭和大藤が丘病院外科系診療センター（形成外科）〕  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日



医学部  
整形外科講座担当  
教授（員外）

勤務地：昭和大江東豊洲病院外科系診療センター（整形外科）

白旗 敏之

前：医学部整形外科講座担当 准教授〔勤務地：昭和大江東豊洲病院外科系診療センター（整形外科）〕  
任命日：令和5年1月10日



昭和大藤が丘病院  
呼吸器センター  
呼吸器外科診療科長

勤務地：昭和大藤が丘病院呼吸器センター（呼吸器外科）

吉田 勤

前：医学部外科学講座（呼吸器外科学部門）担当 准教授〔勤務地：昭和大藤が丘病院呼吸器センター（呼吸器外科）〕  
任命日：令和5年1月10日



昭和大横浜市北部病院  
循環器センター  
心臓血管外科診療科長

勤務地：昭和大横浜市北部病院循環器センター（心臓血管外科）

奥山 浩

現：医学部外科学講座（心臓血管外科学部門）担当 教授〔勤務地：昭和大横浜市北部病院循環器センター（心臓血管外科）〕  
任命日：令和5年4月1日

昭和大臨床薬理研究所長（再任）

小林 真一

現：特任教授  
任期：令和5年4月1日～令和8年3月31日

昭和大発達障害医療研究所長（再任）

太田 晴久

現：昭和大発達障害医療研究所 准教授  
任期：令和5年4月1日～令和8年3月31日

昭和大統括保険診療管理室長（再任）

澁澤 三喜

現：昭和大統括保険診療管理室長  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

昭和大国際交流センター長（再任）

宮崎 隆

現：特任教授、副学長（国際交流・共同研究施設・入学選抜検証担当）  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

昭和大キャリア支援室長（再任）

中西 孝子

現：昭和大キャリア支援室 准教授  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

昭和大認定看護師教育センター長（再任）

三村 洋美

現：保健医療学部看護学科担当 教授、保健医療学研究科長  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

昭和大統括研究推進センター長（再任）

三邊 武彦

現：医学部薬理学講座（臨床薬理学部門）担当 准教授  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

昭和大IR室長（再任）

下司 映一

現：特任教授  
任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日

昭和大薬用植物園園長（再任）

川添 和義

現：薬学部臨床薬学講座（天然医薬治療学部門）担当 教授  
任期：令和5年4月1日～令和8年3月31日

昭和大国際消化器内視鏡研修センター長（再任）

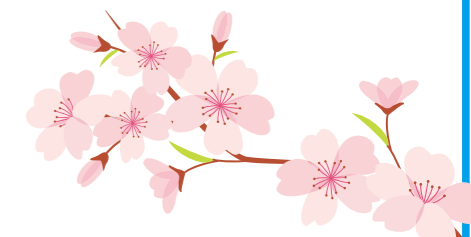
工藤 進英

現：特任教授  
任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

昭和大病院長（再任）

相良 博典

現：医学部内科学講座（呼吸器アレルギー内科学部門）担当 教授  
任期：令和5年4月1日～令和8年3月31日





## 理事会関係

### ◆名誉教授称号授与

衣笠 えり子 客員教授

医学部内科学講座（腎臓内科学部門）担当

勤務地：昭和大学横浜市北部病院内科系診療センター（内科）

【任命日】 令和5年2月1日

### ◆「昭和大学教育職員選考基準申合せ」制定

各学部および各研究科の教授、准教授、講師の選考基準となる原著論文数を定めた。

【制定趣旨】「大学院教育職員の任用および昇任に関する制度の制定検討プロジェクト」の答申に基づき、昭和大学教育職員選考基準を定めるため。

【制定日】 令和5年4月1日

### ◆大学院の研究指導・授業担当等の資格に関する規程の制定

大学院における研究指導や授業等の担当者に関する資格基準を定めるとともに、その要件となる原著論文数を定めた。

①「昭和大学大学院研究指導等資格規程」

②「昭和大学大学院研究指導等資格基準申合せ」

【制定趣旨】「大学院教育職員の任用および昇任に関する制度の制定検討プロジェクト」の答申に基づき、昭和大学大学院研究指導等資格基準等を定めるため。

【制定日】 令和5年4月1日

### ◆「医学部基礎系講座の運営に関する規程」改正

医学部医学科卒業者（医師）の採用については、学長が必要と認めた場合、講座および部門の定員を超過して採用することが可能となった。

【改正趣旨】医学部基礎系講座に医学部医学科卒業者（医師）を採用し、本学医学部における教育・研究分野の発展に資するため。

【施行日】 令和5年1月1日

### ◆令和5年度附属病院における開院日

【開院日とする曜日】

①ゴールデンウィークにおける「国民の祝日」、「振替休日」にあたる日曜日以外の各曜日

= 5月3日(水)憲法記念日、4日(木)みどりの日、5日(金)こどもの日：計3日間

②「国民の祝日」、「振替休日」にあたる月曜日

= 7月17日(月)海の日、9月18日(月)敬老の日、10月9日(月)スポーツの日、1月8日(月)成人の日、2月12日(月)振替休日：計5日間

### ◆昭和大学横浜市北部病院乳腺外科設置

【設置趣旨】診療の要望が増えたと考えられる乳腺外科分野を新たな診療科として独立させ、外科系診療科の充実を図るため。

【構成員】准教授1名、助教（診療科特別）1名、助教（医科）1名

【設置時期】 令和5年4月1日

### ◆昭和大学歯科病院診療科変更

【変更趣旨】昭和大学歯学部における講座・部門の再編に伴い、昭和大学歯科病院の診療科を変更するため。

【変更内容】「高齢者歯科」を「口腔機能管理科」に変更する。「スペシャルニーズ歯科センター」を削除する。

【変更日】 令和5年4月1日

### ◆新型コロナウイルス感染症に関する対応

久光学長から「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応を学内に周知するために『学生・キャンパス職員COVID19対策サイト』を本学ホームページに開設した」と報告がなされた。

### ◆校舎名称の設定

①本学所有の医学堂書店の旧店舗は21号館とする

今後の用途：昭和大学病院臨床研究支援センターの事務スペースほか

②本学所有の昭友商事株式会社の旧社屋はリカレントカレッジ（22号館）とする

今後の用途：リカレントカレッジ、看護キャリア開発・研究センター、認定看護師教育センター、薬剤師生涯研修認定制度事務局の事務スペース

【運用開始日】 令和5年4月1日

### ◆昭和大学発ベンチャー企業設立および株式取得

令和5年3月に昭和大学発ベンチャー企業が設立された。また、当該ベンチャー企業では、本学の研究成果を活用した事業に取り組むことが計画されていることから、本学は当該ベンチャー企業の株式を取得することにより、企業設立と事業の進展を応援していく。

【事業内容】サステナブル事業（ぶどうの压榨カスを用いた健康への貢献）

【本社】北海道札幌市（予定）

【代表取締役】柴田 浩樹（昭和大学兼任講師、㈱ShiBa'xR&D代表取締役）

【設立時株主】学校法人昭和大学

塚田 愛（昭和大学統括研究推進センター 講師）

柴田 浩樹（昭和大学兼任講師、㈱ShiBa'xR&D代表取締役）

塚原敏夫（上川大雪酒造㈱ 代表取締役社長）

竹鶴孝太郎（ニッカウヰスキー 顧問）

### ◆令和5年度活性化推進委員会プロジェクト

本学は、より盤石な体制を築くことを目的に、理事会のもとに法人・大学活性化推進委員会および病院活性化推進委員会を設置している。各委員会では、プロジェクトを立ち上げ、活発な議論を重ね、改革に向けた答申を作成する。今年度のプロジェクトは以下のとおり決定した。

【法人・大学活性化推進委員会】

①看護専門学校臨床教員制度検討プロジェクト

②医学部1年次カリキュラム検討プロジェクト

③修学支援制度の改善検討プロジェクト

【病院活性化推進委員会】

①大学病院における二人主治医制の推進検討プロジェクト

②看護師の病院間ローテーション検討プロジェクト

③大学病院における土曜日診療推進検討プロジェクト

### ◆昭和大学医学部地域循環器救急医学寄付講座の名称変更

令和5年4月1日開設の標記寄付講座について、名称を次のとおり変更する。

【変更後名称】昭和大学茨城県地域循環器救急医学寄付講座

### ◆昭和大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科学部門

抗糖化寄付講座の更新

標記寄付講座について、存続期間を次のとおり更新する。

【更新後の存続期間】 令和5年4月1日～令和8年3月31日

### ◆「医師臨床研修センター規程」改正

【改正趣旨】「医師臨床研修センター長は医学教育推進室長をもって充てる」ことを改め、医師臨床研修センター長の選任については、学長が候補者を理事会に推薦し、理事会の承認を得て、理事長が任命することとする。

【施行日】 令和5年4月1日

## 学務関係

### ◆文部科学省による学部連携病棟実習の見学

文部科学省高等教育局医学教育課薬学教育係による学部連携病棟実習見学が実施された。

【実施日】 令和4年12月23日(金)

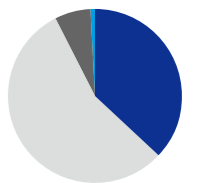
### ◆大学院保健医療学専攻科・令和5年度大学院入学試験（春季）結果

試験日：令和4年11月12日(土) 合格発表：11月25日(金)

研究科	試験種別	志願者数	合格者数
博士前期	論文コース	13名	10名
	医学物理教育コース	1名	1名
保健医療学研究科	博士後期	3名	2名
	外国語試験	2名	0名
合計		19名	13名

### ◆医学部6年生のマッチング状況（対象学生：121名）

- 昭和大学附属病院 45名（37.2%）
- その他の病院 67名（55.4%）
- アンマッチ 8名（6.6%）
- その他 1名（0.8%）



# i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

## リカレントカレッジ事務室

### 2023年度 昭和大学リカレントカレッジ 春期プログラム受講生募集開始

2023年度リカレントカレッジ春期プログラムが、4月より開講します。医学・健康・ビジネス・歴史など多彩なテーマの全26講座を取り揃えました。オンライン講座やハイブリッド講座（対面+オンライン）も充実し、ライフスタイルに合わせた受講が可能です。今回は5月以降開講の講座をご紹介します。資料請求・講座申し込みはリカレントカレッジホームページをご覧ください。

【5月開催】 申込締切：4月15日(水)

プログラム名	講師(敬称略)
日本映画で見る「失われたもの」	内田 樹
大切な人や自分を癒す手軽なケア ～看護・介護の視点から日々の生活へ～	田中 晶子 他
医療従事者は「今そこにある危機」に どう対処すべきか ～患者対応等をめぐる 諸問題の解決の糸口をさぐる～	城 祐一郎
あなたのプレゼンが、グングンうまくなる！ ～素敵なプレゼンテーションで、人の心を動かそう～	泉 美貴
医療現場のデジタルトランスフォーメーションを 考える ～カルテを電子化してみよう～	中村 明央
今から100歳まで動ける身体作りを!! ～人生100年時代を生き抜く力～	石田 良恵
ビジネス・アートと発達障害(第2シーズン)	岩波 明 他
社会人のための“よくわかる「営業」講座” ～営業職を楽しみながら、業績を上げ続けるために～	藤本 康久

【6月開講】 申込締切：5月15日(月)

プログラム名	講師(敬称略)
知って得する！靴と足の健康	内田 俊彦
生活習慣を見直して健康寿命を延ばそう！	小風 暁
年代別女性の健康と働き方 ～ワーク・ライフ・バランスとヘルスケアを考える～	有馬 牧子 他

【7月開講】 申込締切：6月15日(木)

プログラム名	講師(敬称略)
自然治癒力を高めましょう！ ～ストレス社会を軽やかに生きるために～	佐々木 晶子 他

※定員に達し次第、受付を終了いたします。



1 身体を動かす講座も人気です（「今から100歳まで動ける身体作りを!!」） 2 演習を体験している様子（「大切な人や自分を癒す手軽なケア」） 3 受講生によるプレゼンテーションの実演（「あなたのプレゼンが、グングンうまくなる！」）

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務室

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



## 昭和大学医師会

### 事務局移転のお知らせ

このたび昭和大学医師会は12月5日より事務局を下記に移転いたしました。それに伴い住所・電話番号が変更になりました。今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

【新事務局】

業務時間：8:30～17:00（土）・（日）・（祝）を除く

新所在地：〒142-0064 東京都品川区旗の台1-8-16

昭友商事株式会社（社内1階）

新電話番号：03-3784-8280

メール：shw-isikai@ofc.showa-u.ac.jp

昭和大学医師会へは、昭和大学病院に勤務、大学院生、もしくは関連のある医師であれば入会できます。

お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ 昭和大学医師会事務局 川尻・末澤

## 保健管理センター

### 「学生・キャンパス職員 COVID19対策サイト」の開設について

この度「学生・キャンパス職員COVID19対策サイト」を開設しました。昭和大学の学生・キャンパス職員の体調不良時の対応、感染者、濃厚接触者の対応等、運用が記されていますので参考にしてください。

★病院職員の皆様におかれましては、所属の病院の指示に従ってください。

なお、運用については本学の「新型コロナウイルス感染対策学

務委員会」で決定していますが、感染状況等に伴い、変更することもありますので、必要時には随時確認願います。最終的な対応は保健管理センターの指示に従ってください。

今後、体調不良時には自宅で新型コロナウイルス抗原検査ができるように検査キットを準備しておいてください。抗原キットは「体外診断用」でお願いします（「研究用」は無効です）。

お問い合わせ 保健管理センター

平日（8:40～17:00）

電話：03-3784-8431

土曜・休日・夜間

メール：hokekanc19@med.showa-u.ac.jp



## キャリアマネジメント室

### NEWS LETTER ～REFLECTION～を 発行しました（看護師・助産師・事務職対象）

2023年1月にキャリアマネジメント室の情報や活動をお伝えする『NEWS LETTER ～REFLECTION～』を発行しました。

◇キャリアコンサルティングについて

5年後、10年後を考えたことはありますか？

自分が望む人生の選択を

自分自身で

何をしたいのか

あなたのためのキャリアをどうありたいのかを考えてみませんか？

「仕事が好きで、楽しんでやっているけど、この先は……」

「仕事そのものに対して、嫌々やっていた（いる）」

「新しい仕事に対して不安（不満）があった（ある）」

◇第三者のキャリアコンサルタントが面談をおこなうことで、フラットな関係で安心・安全に自由に話せる場を提供します。

【面談申込について】 看護師・助産師・事務職対象

※17時以降の面談・各施設にて面談希望は、別途ご相談ください

①お名前／所属 ②面談希望日／時間 ※第一希望、第二希望、第三希望を記載してください ③連絡先電話番号／メール

お問い合わせ 旗の台キャンパス1号館4階

電話：03-3784-8044

FAX：03-3784-8144

メール：lifecareer@ofc.showa-u.ac.jp



## 上條記念ミュージアム

### 留学生がミュージアムを見学

2022年12月6日、本学への留学生5名（ウィーン医科大学、サラゴサ大学他）が、国際交流センター職員に引率されミュージアムを来訪されました。本学の歴史や展示品の写真を撮りながら興

味深い様子で館内を一巡後、ミュージアムにある約100年前の米国製アンティークオルゴールによる、「エーデルワイス（オーストリアの国花）」の演奏の際には拍手が起こるなど、温かな雰囲気のなか見学会は終了しました。留学生には帰国前の良い思い出づくりとなったようです。



## 学生クラブの歴史紹介展 第2弾 開催中

現在開催中の第4回企画展「学生クラブの歴史紹介展 第2弾」についてお知らせします。

【期間】 2023年6月まで

【開館】 火曜日・金曜日13:00～15:00（要予約）

【紹介】 北岳診療部、医学部硬式野球部、陸上競技部、救急医療研究部

皆さまのご来館をお待ちしております。

お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



## 人事部働き方改革担当

### 医師の働き方改革に関する情報誌の 創刊について

2024年度より医師の働き方改革が開始となります。働き方改革の理解を深めていただくための情報発信を目的に、情報誌を創刊することとなりました。

「医師の働き方改革」を中心に、本学の人事制度についても掲載する予定です。医師以外の職員の方々もぜひご覧いただき、ご自身そして周りの方々の働き方を考える参考としていただければ幸いです。

お問い合わせ 人事部働き方改革担当

電話：03-3784-8013

メール：jinji-work@ofc.showa-u.ac.jp



総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

父母／鈴木雅人様、平井克明様、金子英人様、幸王研治様、吉田毅様、笠原茂世様、井上義宏様

同窓／貴嶋陸博様(医学部・29回生)、岡松孝男様(医学部・30回生)、杉崎徹三様(医学部・32回生)、栗原正明様(医学部・32回生)、稲生勝司様(医学部・32回生)、今給黎尚典様(医学部・33回生)、鎌敦清磨様(医学部・33回生)、北原隆隆様(医学部・33回生)、川田忠典様(医学部・34回生)、宇津木勝彦様(医学部・35回生)、田口進様(医学部・38回生)、小林正樹様(医学部・39回生)、高橋諄様(医学部・40回生)、光谷俊幸様(医学部・41回生)、眞田妙子様(医学部・41回生)、医療法人井上病院様(医学部・42回生)、長井孝太郎様(医学部・43回生)、林裕史様(医学部・43回生)、会田秀介様(医学部・44回生)、小林和夫様(医学部・45回生)、医療法人幹仁会横山クリニック様(医学部・46回生)、水川啓子様(医学部・46回生)、菅沼孝夫様(医学部・49回生)、医博業会戸野塚医院様(医学部・49回生)、谷尾仁志様(医学部・50回生)、森芳郎様(医学部・51回生)、市橋浩司様(医学部・54回生)、竹村博様(医学部・56回生)、金子教宏様(医学部・56回生)、熱海海の見える病院鈴木和浩様(医学部・57回生)、もろおか整形外科様(医学部・61回生)、高橋章様(医学部・62回生)、遠藤栄之助様(医学部・62回生)、医療法人高仁会様(医学部・65回生)、栗井俊成様(医学部・65回生)、高橋太郎様(医学部・65回生)、田尾大樹様(医学部・68回生)、新井大輔様(医学部・69回生)、鹿島健幹様(医学部・84回生)、藤森琢磨様(医学部・87回生)、中島穰様(歯学部・10回生)、秋山多美子様(歯学部・11回生)、片岡誠様(歯学部・12回生)、医療法人翔雄会様(歯学部・25回生)、大塚義頭様(歯学部・7回生)、磯部博様(薬学部・12回生)、戸崎晃明様(薬学部・25回生)、小出薫様(薬学部・3回生)、須鴨一正様(薬学部・8回生)、丸茂明美様(薬学部・8回生)、荒田悟様(薬学部・14回生)

職員(50音順)／青木啓一郎様、青木武士様、浅川剛吉様、幾瀬大介様、稲垣昌博様、井上晴洋様、遠藤貴美様、大久保文雄様、大塚尚治様、大森章弘様、岡本健一郎様、小川良雄様、小口江美子様、小口勝司様、落合正彦様、小瀨孝士様、笠井史人様、粕谷寛様、加藤京一様、川手信行様、木内祐二様、倉田知光様、下司映一様、小出容子様、小出良平様、小風暁様、小玉敦司様、小林靖奈様、酒井均様、眞田裕様、澤田成彦様、柴田佳太様、澁澤三喜様、菅沼岳史様、須澤徹夫様、鈴木慎太郎様、鈴木泰平様、鈴木洋様、高橋俊行様、田口彰彦様、瀧本雅文様、鶴谷純司様、中西孝子様、中納治久様、長濱諒様、橋本圭司様、橋本東児様、橋本みゆき様、長谷川毅様、肥田典子様、平井康昭様、弘中祥司様、宮崎章様、村上幸三様、村上雅彦様、村山周平様、諸星北人様、八木正晴様、山田篤様、吉川輝様、吉澤穰治様、吉村清様、龍家圭様、渡邊裕之様  
一般／医療法人社団育成会鹿島田病院様、有限会社北井乳販様、株式会社大晃様、株式会社進路企画様、澤田実香様、ブラザー興業株式会社様、神奈川県市交通株式会社様、株式会社環境テコム様、医療法人慈善会亀川病院様、株式会社タマショウ様、トキワ科学器械株式会社様、平岩塗装株式会社様、豊和エンジニアリング株式会社代表取締役安達直輝様、医療法人丸山会様、エース技建株式会社様、東京建材工業株式会社様、有限会社森井ホームサービス様、丸斗工業株式会社様、株式会社竹中庭園緑化様、三峰電気株式会社様、東急ライフア株式会社様、株式会社アスター様、株式会社東栄様

【学術研究奨励基金への寄付】

職員／尾頭希代子様

【教育研究協力資金への寄付】

同窓／田崎博之様(医学部・33回生)、河野博様(医学部・53回生)  
一般／第49回日本小児臨床薬理学会学術集会大会長・佐々木忠徳様

【医学部への寄付】

同窓／横山幹彦様(医学部・46回生)、高良由紀子様

【薬学部への寄付】

父母／岡野彰文様

【富士吉田教育部への寄付】

職員／沢田祐子様

【昭和大学病院への寄付】

同窓／荏原包臣様(医学部・44回生)  
一般／株式会社兼藤様、株式会社パートナーズ様

【昭和大学病院附属東病院への寄付】

職員／大塚凌様

【昭和大学藤が丘病院への寄付】

一般／吉川商事株式会社様

【昭和大学藤が丘リハビリテーション病院への寄付】

同窓／横山幹彦様(医学部・46回生)

【昭和大学横浜市北部病院への寄付】

同窓／中山壽朗様(医学部・35回生)

【昭和大学江東豊洲病院への寄付】

一般／学校法人東京YMCA学院しのめYMCAこども園様、大久保久子様

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／吉津徹様(医学部・50回生)、渡邊豪紀様(医学部・68回生)  
職員／長谷川毅様  
一般／日本中央競馬会様

【病院建設・運営維持への寄付】

一般／三協立山株式会社様

【校舎建設・運営維持への寄付】

職員／村上秀友様

【学生寮建設・設備維持への寄付】

父母／長谷川真司様

【その他の寄付】

同窓／昭和大学同窓会様

※11月1日～1月31日

今号の表紙写真

昭和大学の創立90周年記念事業で竣工した昭和大学上條記念館の正面には枝垂桜が植えられています。広義の「シダレザクラ」では品種にかかわらず遺伝により、柔らかくなった枝が重みで垂れるという様子を指すそうです。ソメイヨシノに比べて鮮やかなピンクの花弁が春の門出と出合いを明るく見守ってくれているようです。

上條記念館と枝垂桜が親しみのある旗の台のランドマークとなり、学術と文化の発展の拠点となるよう、今後も一層邁進してまいります。



SHOWA UNIVERSITY NEWS vol. 3

March 2023  
昭和大学新聞 通巻第612号  
令和5年3月31日発行  
年6回発行



学校法人昭和大学 (03) 3784-8000  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口勝司

編集 総務課 大学広報係  
(03) 3784-8059  
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社



【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)  
(0555) 22-4403 (富士吉田)  
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793  
入学支援課 (03) 3784-8026